

はじめに

「たよらか」という言葉は、「平ら」「清らか」という単語が合わさった造語です。以前、仕事で出会った90代の女性の言い間違いから出た言葉でしたが、私はこの言葉の響きがとても好きになったので、使っています。

その女性は、『人が生まれたときは、誰でもどこでも同じ、平等で清らかなの。なんの違いもない。誰でも一緒。』

それなのに、成長するにつれてそうじゃなくなっていくね。

それでも、「たよらか」であることを忘れずにいたいね」と、話してくれたときがありました。

ついつい目に見えるもので平等やいい人、そうじゃない人なんて判断しがち。

こんなことは望んでいない！ という経験を何度も繰り返し返して、もう生きているのも嫌だと投げやりになりながらも宇宙の法則というものに出会い、起きることの法則を知ると全部自分の望みは叶っているということにがく然とした。

それでも、解釈を間違えたりして、こじれて自分と向き合っているようでごまかしていたり。

それでも自分と向き合いつづけるのは、幸せというものが好きだから。

心がざわつくとそれを落ち着かせたくなる。

誰かに教えられたわけではないはずで、心地よさは誰でも求めているはずで、少なくとも指針になる。

心地よさは、喜びかもしれない、嬉しさかもしれない、安心かもしれない、愛しさかもしれない。

何度取り違えても、間違えてもいいから自分の感覚と寸分の狂いもない心地よさに近づき、経験していきたい。

心地よさは、アイデアをくれるときもある。

そのアイデアは、大きい願い、小さい願い、あのとときの望み、あのとときからの望みへと近づけてくれるものだったりする。

自分を見る目にごまかしをなくしたら、否定したくなるものがいくつもあるけれど、受け入れると同時に飛び込んでいるようでもあって、とつても楽になる。

よくなろうと頑張るでもなく、幸せを軸に生きていきたい。
ひとりで生きていくことなんてできないし、できていない。

完璧でもなく、素直でなければ、正直でもないときもあるし、それでも幸せを選べる。

今までの人生の中で一度だけ、「死ぬかもしれない、殺される」と本能的に感じたことがある。

守ること、諦めること、攻撃することが頭をよぎったあと、「どうか、この人が幸せでありますように」と何度も何度も心の中で願いました。

幸せならば、何も攻撃しないはずだと思ったからです。

一見、私が優しそうに感じる話ですが、私が私の幸せを見失い、諦めかけてい

た結果でもあります。

自分の幸せとは。

幸せが軸となると、自然に先に与えることも増えてくると思います。

私の場合は……、と、ご自分に置き換えながら、自分にとっての幸せを思い出し、見つけるきっかけとなることを願います。